

2023年1月30日
システムワークフロー検討作業部会

システムワークフロー検討作業部会 2022年度活動報告（報告）

1. 活動概要

第33回これからの学術情報システム構築検討委員会において承認された「活動計画」を基に、JUSTICEとの連携や国内外の事例調査等に当たったほか、「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針(2022)」を作成し、公開した。

2. 活動内容

(ア) 課題解決及び検証を目的とする班

① 国内電子・デジタル資料検討班

(1) 「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針案」の作成

- ドラフト版を公開していた「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針案」について細部を再調整し、「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針（2022）」の完成と公開に寄与した

(2) 書誌データ提供の調整と各種検証（電子ブック）

- 紀伊國屋書店、丸善雄松堂をはじめとする複数の国内電子ブックのプラットフォームベンダーと書誌データ提供に関する折衝を開始した。加えてopenBDの書誌データと、各社のサンプル書誌データのMARC21におけるフィールド項目のマッピングについて検討を行った。そのほか、マイクロコンテンツのメタデータに関しても、標準のフィールド項目を策定した

(3) 日本資料専門家欧州協会（EAJRS）での講演（デジタルアーカイブ）

- リスボンにてハイブリッドで開催された日本資料専門家欧州協会（EAJRS）の2022年次大会（2022年9月14～17日）において、パネルディスカッションを設け、特にデジタルアーカイブの国際的なメタデータ流通について、海外の日本研究者・日本司書等に向けてオンラインで説明をおこなった

(4) メタデータのマッピングテスト（デジタルアーカイブ）

- 「電子リソースデータ共有サービス」をつなぎ役として、JPCOARスキーマに対応していないデジタルアーカイブのメタデータをIRDBに流通させることを想定した。そのうえで複数機関からサンプルとして選び出

したメタデータについて、「電子リソースデータ共有サービス」に取り込むために、MARC21 へのマッピングを検討することとした（2022 年度中に実施予定）

② メタデータ流通の高度化検討班

(1) NCR2018 を適用したコーディングマニュアル改訂案の作成（目録）

- 新 NACSIS-CAT への NCR2018 適用について、適用細則案に基づいたコーディングマニュアル改訂案の作成を進めたほか、NCR2018 の洋書適用についてのユーザーグループの試行を実施した

(2) 著作の取扱い範囲の検討（目録）

- NDL や他の書誌作成機関との情報交換会に参加し、オンライン会議や ML での情報収集を行い、著作データを作成する資料の範囲の検討を行った

(3) おもな対外活動

- 2022 年 11 月 15 日 図書館総合展これから委員会フォーラムで NCR2018 の進捗状況の報告を行った

③ 統合的発見環境の整備班

(1) 次期 ILL に関する調査

- 次期 ILL に関する検討を行い、STL (Short Term Loan) についての調査、Article Galaxy Scholar 及び Reprints Desk についての調査を行った。Article Galaxy Scholar については、2022 年 8 月 23 日に提供元からデモと説明を受け、意見交換を実施した
- 図書館等公衆送信サービスについては、関係者協議会からの情報、図書館等による図書館資料のメール送信等に関するガイドラインについての調査を実施した
- 2023 年 1 月 27 日に開催される「令和 4 年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業」において、本項目に関するパネリストとして登壇することとした
- 次期 ILL の要求要件を年度内にまとめることとした（2022 年度中に実施予定）

(2) 統合的発見環境に関する検討

- 統合的発見環境に関する検討を行い、統合的発見環境の要求要件を年度内にまとめることとした（2022 年度中に実施予定）

(3) シェアードプリントに関する調査

- シェアードプリントに関する検討として、国内外の導入事例の調査を行

った

④ 図書館システム整備班

(1) 「図書館システムガイドライン」の検討

- 複数大学での図書館システム共同調達を想定し、図書館システムに求める要件を利用機関の規模等を加味して具体化した「図書館システムガイドライン」の検討を行った

(2) 図書館サービスプラットフォームの統計ツールの検討

- 図書館サービスプラットフォームの Alma に付属するオラクル製の「ビジネスインテリジェンスツール」(BI ツール) を用いて、COUNTER による統計を収集・分析するための調査を開始すべく検討を行ったほか、同様に Alma に付属するオラクル製の「データ可視化ツール」に関して、図書館の業務分析における活用可能性についての検討を開始した

⑤ 電子リソースデータ共有班

(1) 「ライセンス (JUSTICE)」の公開

- JUSTICE および学術コンテンツ課と調整しつつ、JUSTICE 提案を基にした「ライセンス (JUSTICE)」について、2022 年 4 月からテスト公開を行ったうえで、12 月には本公開を実現させた

(2) 電子ブックの書誌共有サービスのテスト構築と検証

- 国内電子・デジタル資料検討班と調整しつつ、電子ブックのプラットフォームベンダーから提出されたメタデータと、openBD から入手したメタデータを共有するためのディスカバリーサービス (電子ブックの書誌共有サービス) をテスト構築し、書誌データの統合プロセスや画面における表示状況、検索機能の検証を行った

(イ) 運用・管理を目的とする班

① ERDB-JP 運用作業班

(1) ERDB-JP の運用

- ユーザー数はパートナーA : 113、パートナーB : 65 機関となったほか、コンテンツ数は 20,917 タイトルとなった (2023 年 1 月 4 日現在)

② 新 NACSIS-CAT/ILL 移行支援班

(1) NACSIS-CAT/ILL 移行資料の確認

- NACSIS-CAT/ILL 移行にかかる以下の説明会等の広報資料の内容について、NII の依頼に応じて確認した

- CAT/ILL リプレイス&電子リソースデータ共有サービス説明会：
2022年10月27日
- SRU ゲートウェイサーバテスト等の広報：2022年10月31日
- 電子リソースデータ共有サービス「ライセンス (JUSTICE)」の正式
公開：2022年12月26日

3. 作業部会等の開催

A) 作業部会

- ◇ 第8回 システムワークフロー検討作業部会 2022年6月10日(金)
- ◇ 第9回 システムワークフロー検討作業部会 2022年10月3日(月)
- ◇ 第10回 システムワークフロー検討作業部会 2023年1月17日(火)

B) 班別打ち合わせ(随時)

以上